



説教	力と聖霊と強い確信	持田 克己	1
教会の課題	第68回大会に向けて	芳賀 繁浩	2
旧約聖書に聴く	「コヘレトは言う、『美しい』と」	片野安久利	3
信仰問答を学ぶ	父と母を敬え -日本キリスト教会における信仰継承-	澤 正幸	4
■	教会、この地とともに④ 高知旭教会		
目次	課題先進教会として歩む	青木 豊	5
	スイッチインタビュー② 青年への返信		
	見物人から証人へ	小林 宏和	6
	さんびかに生かされて		
	心を高くあげよ! -『讚美歌21』の第18番-	石田 直矣	6
■	み言葉に照らされて 主の山に備えあり	本村 春海	7
	こいのにあ 李炳斗先生をお迎えして	山本 雅人	7
	小倉教会金泰仁伝道師就職式の喜び		
		中原 修	8
	教会ニュース		8



力と聖霊と強い確信

わたしたちの福音があなたがたに伝えられたのは、ただ言葉だけによらず、力と、聖霊と、強い確信とによったからです。(テサロニケの信徒への手紙一1章5節)

もち だ かつ み
持 田 克 己

この聖句は、今日深く覚えられなければならないと思います。20年以上にわたって教会員や礼拝出席者が減少し、宣教活動に困難を感じる時、その原因を社会の世俗化や人々の宗教離れとするだけでなく、わたしたちの宣教の姿勢も主の前に問われなければなりません。「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くて悪くても励みなさい」(テモテ二4:2)とあり、パウロも伝道の困難な時があることを認めています。しかし、彼はテサロニケの教会員に「わたしたちの福音があなたがたに伝えられたのは、ただ言葉だけではない」と語り、「そこには力(神の力)と聖霊の働きがあり、そこから来る強い確信があった」と語っています。すなわち、パウロたちが語る福音の言葉には生命があったのです。また、「イエスがこれらの言葉を語り終えられると、群衆はその教えに非常に驚いた。…権威ある者としてお教えになったからである」(マタイ7:28-29)とあります。イエス・キリストの言葉、福音の言葉には神の力が伴い、ゆえに力強く権威もあったのです。使徒言行録は初代教会の宣教記録ですが、使徒やキリスト者の宣教には必ず神の力なる聖霊の働きがありました。それを最も明確に語るのは使徒言行録第2章の聖霊の降臨です。初代の使徒たちだけでなく、わたしたちにも聖霊は降り注がれています。そのことを信じ、宣教に当たっては理性による言葉の学びは当然ですが、聖霊の働きを熱心に祈り求めましょう。

聖霊は宣教に伴うだけでなく、信仰者を生かす霊でもあります。パウロは「信仰と、希望と、愛」(コリ一13:13)を語っていますが、これらもまた聖霊

の賜物です。さらに、わたしたち信仰者が神の恵みとして与えられているものは喜びです。「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい」(フィリピ4:4)とあり、「あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ち溢れています。それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです」(ペトロ一1:8-9)とされています。さらに、「イエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与え」(ペトロ一1:3)とあります。デンマークの哲学者キルケゴールも「信仰とは情熱のことである」と語っています。思うに、信仰ほど情熱的な行為があるでしょうか。

「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです」(ロマ10:17)とあるとおり、福音の言葉は先ず理性で聞かれ、頭で理解されなければなりません。その言葉が心に届かなければ信仰には至りません。「最も長い旅は国境を渡る旅ではなく、頭から心への旅である」と聞いたことがあります。その旅を導き信仰へと至らせるのは聖霊の働きです。それにしても信仰にはなぜ聖霊の力が必要なのでしょう。それは、信仰が対象とするのは理性で捕らえることのできるものではなく、それを超越した神であり、福音の真理だからです。「絶えず祈りなさい」(テサロニケ一5:17)と勧められています。父なる神より遣わされ、主イエスによってその降臨が約束された、聖霊の働きを切に求めましょう。(高槻教会牧師)